

TKK 3850形 更新車 (横浜製作所タイプ)

Nゲージボディ未塗装組立キット【トレーラー車】

組立説明書



製品概要

TKK3850形は、1952年～1953年の間に、川崎車輛製5両・東急横浜製作所製12両の計17両が制御付随車として製造されました。旧3000系列の新製形式としては本形式が最後の製造となりました。

この当時、まとまった数の制御付随車が量産された背景には、1500Vへの昇圧で電動車出力が向上したことにより、電動車よりも付随車による輸送力増強が求められたという事情があります。そのため、電動車の3450形と組み合わせて使用されました。

その後、1973年頃より更新工事が開始され、3450形同様窓寸法の拡大やアルミサッシ化が行われましたが、本形式ではさらに進んで、張り上げ屋根化・ライトケース新設といった工事メニューが加わりました。特に前頭部の張り上げ屋根姿は斬新で、“海坊主”と呼ばれ親しまれました。

nano factoryでは、この名旧型車のモデル化にあたり、多数派の横浜製作所製クハ3855～3866より更新工事を受けた晩年の姿を選定し、3Dプリントにて皆様にご提供いたします。横浜製作所製特有のYS-T1台車や前面貫通扉上のヘッダーが無い姿も作り分けています。

未塗装板状キットですので、TKKクハ3850形としてはもちろんのこと、細部加工で他の車番に改造したり、切り継ぎ等の加工で往年の各社旧型車を再現したりしてお遊びいただけます。

製品仕様

製品名：TKK 3850形 更新車 (横浜製作所タイプ)
Nゲージボディ未塗装組立キット【トレーラー車】

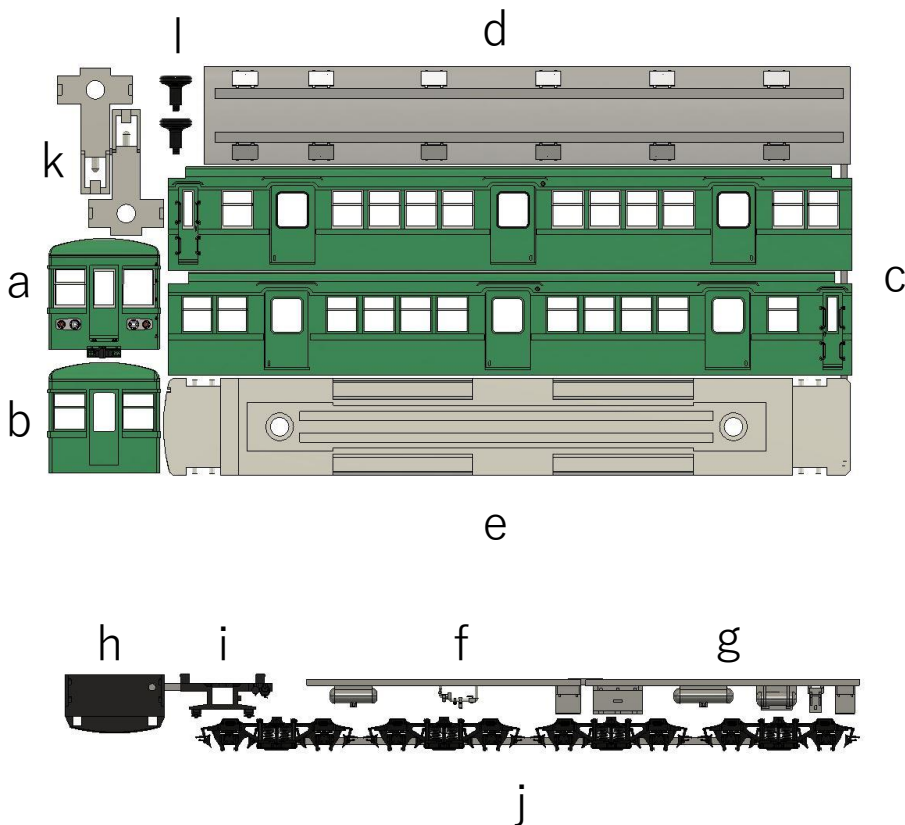
数量：TKKクハ3850形 1両分
内訳：

ボディ・屋根・床板：

- a:前面：1
- b:妻面：1
- c:側板：2
- d:屋根板：1
- e:床板：1

床下機器・台車類：

- f:床下機器a：1
- g:床下機器b：1
- h:ATS受電器：1
- i:ATS受電器台座：1
- j:YS-T1台車枠：4
- k:台車ボルスタ：2
- l:台車中心ピン：2



別途必要品：完成には下記の社外品が必要です

- Φ5.6絶縁車輪：4
- 窓ガラス用透明板：前面2・側面2
- 車体表記インレタ：1(トレジャータウンTTL803-11東急3000系標記 推奨)

組立説明・手順

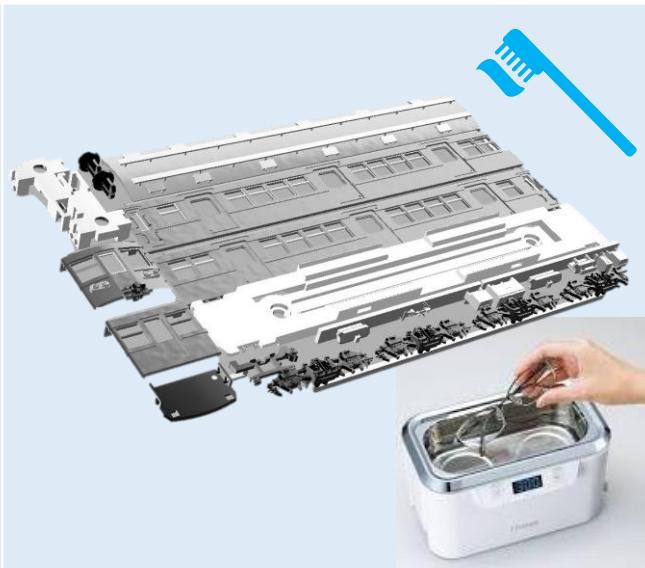
1. 全てのパーツを中性洗剤で洗浄します

パーツ表面の油分を取り除き塗料の定着を良くします。

このとき歯ブラシを使用し、ぬるま湯で丁寧に擦るとよいでしょう。

但し、屋根板はランボードが非常に繊細な造りのため、歯ブラシは当てずに流水ですすいでください。

超音波洗浄器を使用すると、入り組んだ場所まで綺麗に洗浄できます。



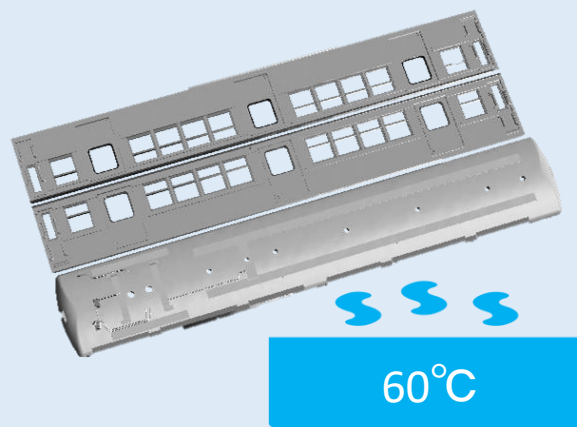
2. 反りのあるパーツは60℃程度のお湯に浸し、手で矯正します



ボディや屋根板など、細長い板状のパーツは反りがある場合があります。

軽微な反りはボディ接着の過程で矯正されますが、強い反りは60℃ほどの熱湯に浸すことにより事前に矯正することができます。

熱湯を使用する際はやけどに十分ご注意ください。

また、高温すぎると変形の原因となりますのでご注意ください。



  やけどに注意

3. 積層痕形目立つ場合は、紙やすりで削ります

ボディや屋根板などの平面な箇所は、3Dプリントの特性上積層痕と呼ばれる木目のような凹凸が発生します。

そのような箇所は、#600～#1200程度の紙やすりで削り平滑にしてください。

削りすぎてディテールを損なわないようご注意ください。



組立説明・手順

4. ボディ4面と屋根板を瞬間接着剤で接着します

3Dプリントの亚克力素材はプラモデル用接着剤では付きません。瞬間接着剤またはゴム系接着剤を使用します。

瞬間接着剤は、ゲル状の遅乾タイプで位置合わせし、位置が決まったら流し込みタイプで本接着します。

また、瞬間接着剤は白化現象が生じますので、塗装後や透明パーツに使用する場合はゴム系接着剤か、白化防止タイプの瞬間接着剤を使用するとよいでしょう。



張り上げ屋根のため、前面・妻面と側板の接合部はパテなどを盛って隙間を埋め、硬化後やすりで平滑にすると見栄えが良くなります。

5. 全てのパーツにサーフェイサーを吹き付けます


3Dプリントの亚克力素材は半透明なため、サーフェイサーで下塗りして透けを防止します。

但し、ライト部は素材の半透明を生かすためマスキングゾルなどで養生しておきます。

サーフェイサーは#1000～#1200のスプレータイプがよいでしょう。

小さな付属パーツ類は特にディテールが埋まりやすいため注意します。



 溶剤の吸飲に注意

6. 屋根部分をマスキングし、ボディを塗装します


塗装方法は様々あるため、お客様のやりやすい方法で塗装してください。

弊社では、新水性塗料“アクリジョン”を調色しエアブラシで塗装しています。

臭いが大幅に軽減され、体や環境にやさしいためおススメです。

車体色は標準のライトグリーンの外、リバイバル塗装ならアイボリー+紺で塗り分けます。屋根色はサーフェイサーの色がジャストなのでそのまま適用しています。

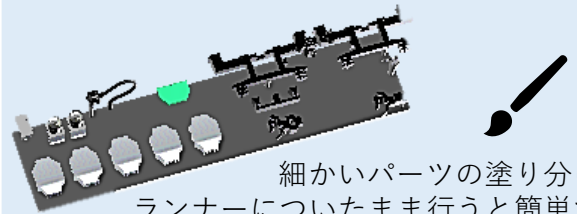


 溶剤の吸飲に注意

組立説明・手順

7. 床下機器や台車、各種パーツを塗り分けます

床下機器・台車・ATS受信器は黒で塗装します。



細かいパーツの塗り分けはランナーに付いたまま行くと簡単です

8. ボディに色を差します

窓サッシに銀、ドア窓Hゴムに黒、テールライトにクリアレッド、ライトケースにグレー、ライトリムに銀、連結器と胴受けに黒をそれぞれエナメル塗料で色差します。

窓サッシとドア窓Hゴムに色差しする際は、烏口を使うと便利です。

はみ出した箇所は、ボディの下地を傷つけないよう丁寧に爪楊枝で削り取ります。



烏口にエナメル塗料を垂らし毛細管現象を利用して色を差します

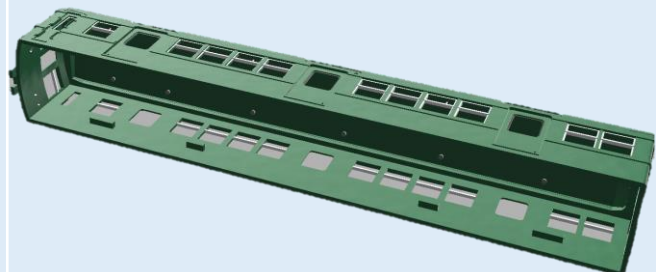


9. 窓ガラスを接着します

窓サイズに切り出した透明なプラ板や塩ビ板をボディ裏からゴム系接着剤で貼り付けます。

ボディ裏面は平滑なため、各面1枚ずつ切り出せば全ての窓をまとめて表現できます。サッシも薄く表現していますので、はめ込みガラスにする必要はありません。

普通の瞬間接着剤は白化現象により透明パーツを白く濁らせてしまうので使用しないようにしましょう。

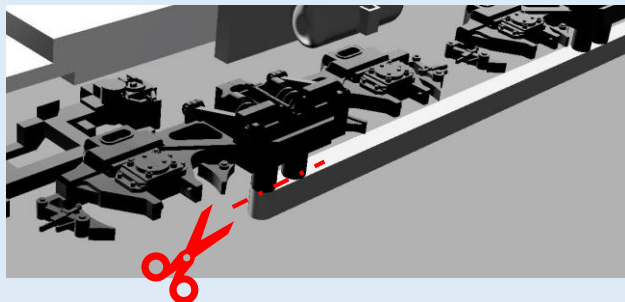


組立説明・手順

10. 各種パーツ類をランナーから切り離します

パーツ類は、差し込み式パーツの場合取付足を残してランナーから切り離してください。

カットする際はパーツを傷つけないようご注意ください。



! 差し込み式パーツの取付足を誤って切除しないようご注意ください

11. パーツをボディに差し込みます

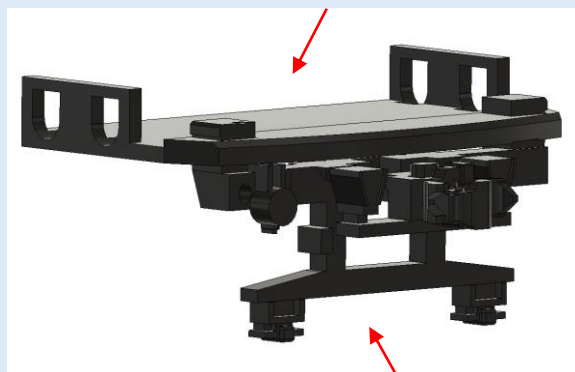
ATS受電器はATS受電器台座と組み合わせ床板に取り付けます。
(TNカプラーを取り付ける際は必要ありません)

台車枠はボルスタに差し込み、社外品のΦ5.6絶縁車輪を取り付け、中心ピンを使用して床板に取り付けます。

TNカプラーを使用する場合は、ボディにモールドされている連結器とカプラー受けをカットしてください。

床下機器はゴム系接着剤で床板に接着します。

ATS受電器台座



ATS受電器

12. ボディと床板を組立て、残りのパーツを取り付けて完成!

ボディと床板を組立てます。

最後に社外品のナンバーや社章などの表記類を入れて完成です。



完成!